**B-２　「効果的な支援のヒント」**

不登校児童生徒の中には，教室には入れないものの，別室なら登校できる場合があると思います。担任はもちろん，養護教諭や教科担当の先生などにも協力してもらいながら，話をしたり課題に取り組ませたりしているのではないでしょうか。しかし，別室登校は続くものの，本人から「教室に行きます」という言葉が出ず，この先どのように教室復帰へつなげればよいかが見えなかった経験はありませんか？別室登校から教室復帰へステップアップしたい場合はどのように考え，どのように対応したらよいのでしょうか？

**（１）考え方 ： 「最終的な支援目標を常に意識する！」**

別室登校を開始する前から，支援の目標が通常登校も含めた不登校児童生徒の自立であることを意識しましょう。目標の実現に向けてはスモールステップで，本人に無理をさせずに目標を少しずつ達成できるように支援していきしましょう（支援目標については「支援目標参考シート」を参考にしてください）。

それまで家を出られなかったのに，別室とはいえ学校に足を運べたことは大きな前進であり，教師も安心してしまう場面です。しかし，そこから先が大切です。別室は一時的なものでありその先どのように支援を行っていくのかについて見通しが必要になります。それでは教室復帰に向けて，どのようなことに気を付けて支援を行っていけばよいのでしょうか？

**（２）対応策 ①： 「別室と教室の環境を近づけ教室復帰を目指す！」**

教室復帰に向けて，どのように支援するかは非常に難しいものです。難しさの要因の一つは，別室と教室の生活環境の違いが大きいことです。別室は授業もなく，友人との関わりもなく，時間割などもありません。刺激の少ない別室登校に慣れてしまうと，教室に入った時に強いストレスを感じてしまこともあります。したがって，教室復帰を目指す場合は，別室を教室の環境とできる限り近づけ，適切な“刺激”を与えることが大切になります。別室でも以下のようなことを行ってみましょう。

**【別室対応例】**

**「朝の会や帰りの会を行う」**

**「日課表に従って生活し，時間割に合わせて学習する教科を選択する」**

**「休み時間に友達と話をしたり，昼食を友達と一緒に食べたりする」　など**

例にあるもの以外にも，教室の状況に近づけることを考えてみましょう。ただし，どのような支援でも，本人の負担にさせないように十分に注意しましょう。別室の環境を教室に近い環境にすることで，教室復帰してからのハードルが少しずつ低くなります。「とりあえず別室」で留まることなく，別室登校の先を見通した支援を計画し，児童生徒の教室復帰を目指しましょう。

**（２）対応策 ②：「教室復帰後も保護者と連携して児童生徒を観察！」**

本人が教室復帰したからといって，安心はできません。通常登校が続き，本人も「大丈夫です」と言ってくれたのに，ある日再び不登校状態に戻ってしまうことがあります。学校では周囲に合わせ明るく振る舞っていたものの，帰宅するとぐったりしていたり，朝に家を出る時もかなり覚悟をしていたり，身体的・心理的負担が見えにくいこともあります。通常登校ができてきてからも，２～３か月は，保護者と連携し，本人の様子を把握するようにしましょう。もし何か気になることがあったら，すぐに連絡をするように事前に相談しておくとよいかもしれません。

また，通常登校してから本人が不登校だった時のことを振り返り，何が本人の支えとなったのかを話してくれることもあります。本人の趣味や特技なのか，保護者の存在なのか，教師の声掛けだったのかなどを確認し，今後また困難にぶちあたった時にもその力を使って乗り越えていけるように話をすることが大切です。児童生徒が話してくれた振り返りは，他の不登校児童生徒にも有効な対応がふくまれている可能性があります。

教室復帰した後は，まだ安心できない時期であり，また，重要な情報を児童生徒と共有できる時期でもあることを意識して支援に当たりましょう。

**～ま　と　め～**

**①　不登校児童生徒の教室復帰を含めた自立を目標にしながら，スモールステップを大**

**切に支援を行っていきましょう！**

**②　別室登校からどのような支援を行って教室復帰に向かわせるかについて見通しを**

**持ちましょう！**

**③　別室の環境を教室の環境に近づけていき，教室復帰へとつなげましょう！**

**④　教室復帰後も安心せず，復帰後でしか聞けないことを本人と共有しましょう！**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段 階 | **支援目標の目安** | **留意点** |
| **ゴール** | 通常登校 | 明確な目標を持ち，充実した学校生活を送る | **☆目標を持ちながら無理なく登校出来ているか定期的に本人や保護者に確認する。** |
|  | 通常登校を通して，学校生活に慣れる | **☆定期的に１対１で話す機会をつくる。****ここで支援の手を緩めると，再び不登校になるケースが多いので十分に留意する。****☆家庭と連携して，本人の様子を把握し２～****３か月は無理をしていないか確認する。** |
|  | 通常登校前 | 一日中過ごせる日を増やす | **☆時には状態が逆戻りすることもあり得る。その場合は，戻ったところから再度支援を進めていく。****☆下の項目を目安に，次の到達目標へ進めるかどうかチェックする。****□現在目標としている活動が自然にできている（物足りないぐらいに感じている）****□下校後の様子から，その活動を負担に感じていない（家庭と確認）**例１）学校に関するもの（話題，学習道具など）への反応例２）生活リズムや言動の変化（イライラや不安感， 家族といる時間，食事の量）など**☆児童生徒の実態によっては，ＳＣ・ＳＳＷ****・他機関等との連携も考慮する。** |
|  | 週１日だけ，朝から放課後までクラスで過ごす |
|  | クラスに入り，午前中だけ授業に出る |
|  | クラスに入り，午後だけ授業に出る |
|  | クラスに入り，苦手な授業も受ける（１～２時間） |
|  | クラスに入り，得意な授業を受ける（１～２時間） |
|  | 誰もいないクラスに入ってみる |
|  | 保健室，別室等に登校し，課題に取り組ながら一日を過ごす |
|  | 保健室，別室等に登校し，課題に取り組ながら半日を過ごす |
|  | 保健室，別室等に登校し，課題に取り組む（30分～１時間） |
|  | 保健室，別室等で２時間過ごす |
|  | 保健室，別室等で１時間過ごす |
|  | 居心地の良い場所に入ってみる（図書館，体育館等） |
|  | 保健室，別室等に顔を出してすぐ帰ってくる |
|  | 登校復帰前 | 昇降口まで行って戻ってくる | **☆下の観点を目安に，登校刺激を与えてよいかどうかチェックする。****(1)心のエネルギー**□外出ができる□日常生活のリズムが整っている□自分から進んで，手伝いなどをする□その他エネルギーを感じさせる言動がある□退屈し始めている（「暇だ」と言っていないか）**(2)学校への関心度**□机，教科書，制服等への拒否感がない□学校の話題が本人から出るか，または話題を出した時に表情があまりくもらない**※あくまでも目安であり，他にも気を付けて見たいことがあれば追加してよい。****※７項目全てを確認してから登校刺激を与えるのが基本だが，本人の様子や支援体制等を考慮し，確認前でも与えられそうな場合は与えてもよい。ただし，上手くいかなかった時に備えて心のエネルギーを減らさない手立てを用意したり刺激を与えた後の様子を確認したりすること。** |
|  | 校門まで行って戻ってくる |
|  | 学校の見えるところまで行く |
|  | 家から次の通りまで行く |
|  | 登校準備をし「行ってきます」と言って玄関を出てみる（すぐ戻ってＯＫ） |
|  | 朝，学校に行く準備をする |
|  | 夜，次の日の時間割に合わせて教科書や筆記用具をそろえる |
|  | 自分から学校の話題を出す,学校の話をしても表情があまりくもらない |
|  | 自分の部屋から出てきて，家族と食事をしたり学校に関係のない話をしたりする |
|  | 自分の部屋に他者を入れる |

※児童生徒の実態に応じて，内容や順番を変えていきましょう。

【　支援目標参考シート　】